

地域環境保全功労者功績内容等

県別	氏名	功績
青森県	青森市山岳団体連絡会 (あおもりしさんがくだんたいれんらくかい) 会長 成田 茂則	長年にわたり八甲田山清掃登山と身障者登山を行ったことへの実績により、平成5年11月青森市政施行95周年記念功労賞受賞。 八甲田山清掃登山実績により平成7年6月農林水産省全国地域美化活動功労賞受賞。 同上行為を行ったことへの実績により平成10年5月青森市民顕彰受賞。 八甲田山身障者山岳会合同登山22回実施(年1回)等により、平成11年5月青森県ふれあい活動功労者青森県知事表彰。 八甲田山清掃登山・高山植物盗掘防止巡視登山・自然保護環境改善のための啓発運動等により、平成14年5月第44回全国自然公園大会において、青森県知事功労賞を受賞した。
岩手県	佐藤 まゆみ (さとう まゆみ)	平成5年度から岩手県生活問題研究会(現会長)において、水環境と水質汚染との関連調査・研究、食用廃油で石鹸作り・啓発活動、ゴミ減量と省エネルギーの関係調査に取組み、環境保全の普及啓発に貢献して平成9年度から県の環境アドバイザー、平成13年度から今日まで地球温暖化防止活動推進員として、県内各地で講演を行うなど、地域の環境学習活動の推進に努めている。
秋田県	那須 チカ子 (なす ちかこ)	長年にわたり、家庭でのごみ減量や省エネ行動を実践し、環境家計簿をつけている。これが地球温暖化防止につながる模範的な活動であるとして、平成10年に環境大賞(秋田県知事賞)を受賞した。 家庭での取組に努める一方、平成8年に環境カウンセラーに登録して以来、自身の経験等をもとに、行政や住民団体が開催する環境に関する講座や講演会の講師を多数務め、身近なところから取り組める環境保全活動の実践について普及啓発を行っており、環境教育の推進に大きく貢献している。 また、平成12年から秋田県環境審議会、平成15年からは秋田市環境審議会の委員も務め、諮問事項の答申に積極的に関わるなど、多年にわたり環境行政の推進にも協力している。
福島県	福島市立茂庭中学校 特設科学部 (ふくしましりつもにわちゅうがっこう とくせつかがくぶ) 校長 吉田 務	1,平成5年4月以降、「摺上川ダム」の建設に伴う水質の変化を探るため、摺上川流域の水質調査を開始する。13年間にわたって、年2回~3回の調査を春から夏にかけて実施している。調査ポイントは、ダムの試験湛水前までは16~19ポイント、ダムの試験湛水が始まってからは、調査不可能なポイントができたので11ポイントである。 2,浄化作用のある岩石についての研究と水生生物の食性・川底に生活しているプランクトンの種類の調査を年間2回行っている。 3,炭やEMによる水質浄化への試みを年間3回行っている。 4,河川周辺の清掃活動等を年間2回行っている。 国、県、市の会議等で取組活動の成果を発表している。 ・活動内容 河川の水質調査、水質浄化、清掃活動 ・活動年数 平成5年~13年間 ・年間活動日数 年間2~3回 ・活動地域 摺上川流域 平成16年 “うつくしま、ふくしま。”環境顕彰

県別	氏名	功績
福島県	須賀川市立第三小学校 (すかがわしりつだいさんしょうがっこう) 校長 力丸 丈夫 ↑ 丈` (点が入ります。)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容 河川の水質浄化と環境保全活動 ・活動年数 平成12年 ~ 現在 7年 ・年間活動日数 年間約60時間(4月~12月) ・活動地域 須賀川(下の川)の河川内(約1km) <p>代々の5年生が長年にわたり、下の川において河川水質の浄化活動や清掃などの環境保全活動に努めている。子供達が河川環境の保全活動を行うことで、大人や地域への波及効果は絶大であり、自然環境の回復や啓発に大きく貢献し、その功績が顕著である。</p>
茨城県	社団法人 霞ヶ浦市民協会 (しゃだんほうじん かすみがうらしみんきょうかい) 理事長 堀越 昭	<p>当協会は、平成7年に本県で開催された第6回世界湖沼会議に向けて盛り上った市民の力を結集して、霞ヶ浦再生を願う市民が活動する母体として発足したものである。</p> <p>平成8年発足以来、霞ヶ浦周辺の人々に霞ヶ浦水質浄化への理解を深めてもらうことを目的として毎年開催している「泳げる霞ヶ浦フェスティバル」は平成17年で第10回を迎え、国、県、流域市町村や市民団体、民間企業等の幅広い後援を受けながら、市民に対する霞ヶ浦水質浄化の啓蒙活動の一翼を担っている。</p> <p>協会発足以来、各国で開催される世界湖沼会議に参加しており、霞ヶ浦水質浄化の取り組みを世界に向けて発表している。平成17年度はケニア共和国ナイロビ市で行われた第11回世界湖沼会議で、「住民参加による湖沼管理の試み」などを発表し、参加国から大変好評を得た。</p> <p>平成9年からは、国土交通省の施設である「霞ヶ浦インフォメーションセンター水の交流館」の運営管理を受託しており、この施設を拠点として、市民を対象に「夏の霞ヶ浦何でも相談室」、霞ヶ浦外来種の「オオタナゴ釣り大会」、「泳げるモデル候補地探検」などユニークな事業を展開しており、流域市民の環境問題への関心を高めた。</p> <p>平成18年4月からは、茨城県環境科学センター交流サロンの運営管理を受託している。</p> <p>今後は、同センターと連携して、市民活動との支援・連携など行政と市民団体のパートナーシップの中心的存在としての役割が期待される。</p> <p>茨城県環境保全功労者表彰受賞(平成16年度)</p>
栃木県	豊田 正 (とよだ ただし)	<ol style="list-style-type: none"> 1 昭和62年3月、(社)栃木県産業廃棄物協会の設立に際しては、発起人の中心として尽力し、設立後は理事として協会の運営に献身的に協力し、産業廃棄物の適正処理の推進及び産業廃棄物関係者の意識高揚等に努めてきた。 2 平成3年7月、協会副会長に選任されてからは、会長の補佐役として、収集運搬業、中間処理業の豊富な知識と経験をもって会員の資質向上と適正処理を指導するとともに、廃棄物処理の相談に応じるなど積極的に協会員の育成に努めてきた。また、県や協会が実施する不法投棄防止活動に積極的に参加するなど、会員の先頭に立ち環境保全活動を推進した。 3 昭和63年9月、栃木県環境保全対策基金の創設にあたっては、自らも率先して多額の基金を拠出するなど、積極的に基金の造成に取り組み、中心的な役割を果たした。また、産業廃棄物の不法投棄や不適正処理による生活環境保全上の支障を未然に防止又は最小限に食い止めるための栃木県環境保全緊急対策基金の運用については、緊急性の高い事案への迅速な対応を図り、県民の生活環境保全及び公衆衛生の向上を図った。 4 平成5年4月から、社団法人全国産業廃棄物連合会の中間処理部会運営委員(副部会長)として、産業廃棄物の適正処理及び再生利用等についての研修会や調査研究等を積極的に行うよう努めるなど、産業廃棄物の適正処理推進に大きく貢献した。

県別	氏名	功績
栃木県	<p>特定非営利活動法人グラウンドワーク西鬼怒 (とくていひえいりかつどうほうじんぐらうんどわーくにしきぬ)</p> <p>理事長 釜井 傳一郎</p>	<p>1,平成 8年 5月 西鬼怒川ワーキンググループ設立(メンバー:土地改良区、小学校、自治会等。目的:生態系に配慮したほ場整備事業の推進。)</p> <p>2,平成 9年10月 西鬼怒の川に親しむ会発足(上記ワーキンググループを統合)</p> <p>3,平成10～13年6,7月 工事の際の水草移動作戦(生態系に取り組んだ施設の工事実施期間中)</p> <p>4,平成11年 1,9月 工事の際の魚の移動作戦(生態系に取り組んだ施設の工事実施期間中)</p> <p>5,平成12～17年6月 ドジョウ水路草刈り作業(生態系に取り組んだ施設の保全管理を自主的かつ定期的に活動)</p> <p>6,平成12～17年8月 白沢復元拠点公園草刈り作業(生態系に取り組んだ施設の保全管理を自主的かつ定期的に活動)</p> <p>平成17年 6月 「西鬼怒の川に親しむ会」がNPO法人となる(名称:「グラウンドワーク西鬼怒」)</p> <p>これまで長年取り組んできた農村の自然環境の保全・再生活動が評価された。また、これまで長年取り組んできた自然環境保全活動が評価された。</p>
群馬県	<p>ヤリタナゴ調査会 (やりたなごちょうさかい)</p> <p>代表 斉藤 裕也</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県で唯一藤岡市周辺に生息するヤリタナゴと産卵母貝であるマツカサガいの野生状態での保護・保全に努めている。 ・平成11年、16年にヤリタナゴの生息地が干上がった際に救出し、野生個体群維持のために、生息地の保全と監視を行っている。 ・ヤリタナゴ・マツカサガイ・ホトケドジョウを3種同時に天然記念物に指定することに尽力した。 ・平成14年にはヤリタナゴフォーラムを開催し、普及に貢献した。 ・藤岡市内の小中学校で飼育展示や勉強会を開催し、5月には観察会を開催している。 ・毎年、4回ずつ文化財課(藤岡市)と共同で個体数のモニタリングを継続して実施している。 ・生息地の冬期渇水時に環境水確保のため、藤岡市(農村整備課)を通じて国土交通省、農水省と折衝して希少種生息のために用水を確保し、水質の維持、改善を行っている。
群馬県	<p>玉村町商工会青年部 (たまむらまちしょうこうせいねんぶ)</p> <p>代表 永塚 徹</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成3年から産業祭で「環境美化キャンペーン」を実施 ・平成6年から牛乳パック回収を開始 ・平成10・11年に牛乳パック回収キャンペーンを実施 ・平成12年から回収牛乳パックをリサイクルした玉村オリジナルトイレットペーパーの制作企画販売を開始。包装には障害者も協力している。 ・平成12年ぐんま環境フェスティバルで一般公開し、11月一般向け販売開始。(以降、環境フェスティバルに毎年参加)

県別	氏名	功績
埼玉県	<p>特定非営利活動法人 秩父の環境を考える会 (ちちぶのかんきょうをかんがえるかい)</p> <p>会長 石川 友一</p>	<p>1994年設立 2003年NPO法人の資格取得 調査研究活動 秩父市指定天然記念物「ステゴビル」保護、自生地への復元活動を平成6年より実施している。 「ステゴビルの保護・増殖をめざして」平成12年10月発行 秩父多摩甲斐国立公園地域の森林生態系保護活動として、動植物相調査、酸性雨・霧調査等を実施。 諸講演会、シンポジウム等の啓発活動を3回実施。 「秩父山地緑の回廊」44kmを6回に渡り市民公募により踏査を実施。記録集3巻にまとめる。 武甲山石灰石採掘跡地の植樹緑化の推進 県立公園「秩父ミュージックパーク」におけるビオトープ構想 秩父市井森地区の湿地に生息するコオイムシ等の希少種の保護及び生息地の復元活動。 秩父地域の老樹銘木調査と保護活動。「秩父地方の老樹・銘木」平成11年9月発行 荒川水系の環境調査</p> <p>啓発活動 公民館、学校教育等に講師を派遣するエコプレゼンテーション事業の実施。環境アドバイザー登録23名 秩父地域の環境ビデオとその解説書の作成(38本のVTRを作成) 毎月1～2回の観察会等の実施。・星空観測会・冬の星座で天王星を探そう・浦山ダム自然観察会・野鳥観察会・里山昆虫観察会・化石観察会・ステゴビル観察会等</p> <p>実践活動 武甲山石灰石採掘跡地への植樹等緑化推進活動。 中川国有林(荒川水源地)の針広混交林の森づくり。 秩父ミュージックパークの啓発活動等にインストラクターとしての実践活動 荒川及びその現流域の保全・再生に向けた活動の実施。 ・「水辺の楽校」の運営・荒川河川ごみ調査(年2回実施)</p>
千葉県	<p>板本 守正 (いたもと もりまさ)</p>	<p>昭和58年3月に千葉県公害審査会委員に、また、昭和59年1月に千葉県公害対策審議会(平成6年8月からは千葉県環境審議会)委員に就任して以来、建築工学及び騒音の専門家として貴重な助言を行ってきた。千葉県環境審議会では、平成8年8月から平成15年6月まで特殊公害部会長としても活躍した。 千葉県公害審査会では、7期21年にわたり委員を務め、近年の環境問題が複雑多様化・深刻化し、環境に対する県民の意識も大きく変化する中で、板本氏は、公害紛争処理に関する豊富な知識、経験に基づき、調停委員として多くの紛争解決に努力した。 千葉県公害審査会委員については、平成16年3月をもって退任となったが、千葉県環境審議会委員として、引き続き千葉県の環境行政の推進に貢献している。</p> <p>[近年の主な活動状況] 千葉県公害審査会調停委員として、平成11年度に、製氷工場の動力機械から発生する騒音・振動に係る調停事件において、専門家の立場から貴重な助言を行い、調停成立に導いたほか、平成12年度に申請があった調停事件1件を担当した。 平成17年度は、千葉県環境審議会委員として活躍し、3回の審議会に出席した。 昭和40年5月 空気調和・衛生工学会賞 昭和42年5月 空気調和・衛生工学会賞 平成7年5月 日本建築学会賞 平成8年9月 日本騒音制御工学会賞 平成8年9月 日本騒音制御工学会功労賞 平成11年6月 千葉県環境賞</p>

県別	氏名	功績
千葉県	神田 勝夫 (かんだかつお)	<p>・昭和45年12月に木更津市公害対策審議会(平成13年4月に木更津市環境審議会と名称変更)が設置されて以来、平成17年3月末まで34年にわたり同審議会委員を務めた。 その間、平成2年2月から平成13年3月まで公害対策審議会会長を務めた。</p> <p>・氏は、医学の専門的識見を活かし、同審議会委員として、また、審議会会長として、環境の保全に関する数々の事項を調査審議し、市長に答申をするなど、木更津市の環境行政の推進に多大なる功績を残した。</p> <p>・氏が審議を行なった主な案件は次のとおり。</p> <p>委員として 昭和61年10月 東京湾横断道路環境影響評価準備書に対する意見について(諮問) 昭和61年11月 東京湾横断道路環境影響評価準備書に対する意見について(答申)</p> <p>会長として 平成2年4月 上総新研究開発土地地区画整理事業に係る環境影響評価準備書に対する意見について(諮問・答申) 平成6年10月 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道(木更津市~茂原市間)環境影響評価準備書に対する意見について(諮問・答申) 平成12年11月 (仮称)木更津市環境保全条例の制定について(諮問・答申)</p> <p>・昭和57年度 千葉県知事表彰(国民健康保険功労) ・平成10年度 千葉県知事感謝状(児童福祉の向上) ・平成11年度 国保連合会理事長感謝状(永年の審査委員としての功績) ・平成13年度 千葉県環境賞(木更津市公害対策審議会委員及び同審議会会長として環境行政に尽力)</p>
東京都	五十嵐 和男 (いがらし かずお)	<p>氏は、白子川右岸斜面林にある23区内では貴重なカタクリの自生地(およそ5,471㎡)の所有者で、永年その保全に努めてきた。湧水や雑木林全体の保護と区民への開放を目的として、昭和51年に憩いの森第一号として区と土地の貸借契約を結び「清水山憩いの森」が開設され現在に至っている。</p> <p>そもそも都市の樹林を保全する制度である練馬区の憩いの森制度は、当樹林を保全することを契機に生まれた制度であり、所有者である氏の協力と理解により実現した制度である。昭和50年に第1号である清水山憩いの森が誕生し、昭和52年には「練馬区みどりを保護し回復する条例」に「憩いの森」が制度として位置づけられた。現在は52箇所(113,073.97㎡)の憩いの森および街かどの森が開設されており、都市の貴重なみどりである樹林の保全に寄与している。また、本制度は都市緑地法にある市民緑地制度の先駆けといえる制度であり、そうした意味においても本制度の実現の第一歩を切り拓いた氏の功績はひじょうに大きい。</p> <p>現在、「清水山憩いの森」には、カタクリのシーズンともなるとおよそ1万5千人もの方々が関東一円より訪れ、区民だけではなく広く都市住民の憩いの場として愛されている。</p> <p>また、開設時より、カタクリを守る会が中心となって区民の方々が、本憩いの森の自然環境向上のために腐葉土づくりやカタクリを含めた野草調査などを行っており、およそ30年にわたっての活動がつづいている。</p> <p>さらに、区が施行している土支田中央土地地区画整理事業の土地地区画整理事業審議会会長も務められ、地域の豊かなみどりを活かした良好な住環境と利便性が調和したまちづくりにも広く貢献されている。</p> <p>【表彰歴】 平成5年6月 東京都環境賞 平成15年6月 東京都まちづくり功労者表彰</p>

県別	氏名	功績
富山県	南砺市立福光中部小学校PTA (なんとしりつ ふくみつちゅうぶしょうがっこう) 会長 山岸 敏	当該団体は、ごみの減量化とリサイクルの重要性に着目し、PTA活動の一環として、積極的にリサイクル活動に取り組み、旧福光町におけるリサイクル活動の先駆けとして、リサイクル活動を旧福光町や周辺市町村の小中学校や保育所、自治会に普及させた功績は大きい。 昭和53年度から、新聞、雑誌、段ボール等の回収を始め、その後、空き瓶、牛乳パック、アルミ缶、ペットボトルの回収を開始するなど、年々その活動内容を充実強化している。特にアルミ缶の回収については、月3回実施するなど、恒常的に回収を行っている。 回収にあたっては、全校児童とPTAが地域住民と一体となって取り組んでおり、児童や地域住民のリサイクル意識の高揚に大きく貢献している。 また、資源回収活動により、児童が家庭において、節水、節電などに率先して取り組むようになるなど環境教育の実践にも貢献している。 "平成17年度収集実績 PTA アルミ缶：1t、牛乳パック：620kg、新聞紙：29.97t、雑誌：14.03t、ペットボトル：430kg 児童会 アルミ缶：569kg" 平成10年10月 富山県ごみ減量化推進協議会長表彰 平成12年6月 富山県知事部門功労表彰(環境部門)受賞 平成14年10月 3R推進協議会リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰(文部科学大臣賞)
山梨県	朝日 竹夫 (あさひ たけお) 北杜市文化協会会長	昭和55年 国蝶オオムラサキを守る会に入会し、現在に至る。 昭和62年 長坂中学校のオオムラサキ有視界調査の指導を、現在に至るまで毎年行っている。 平成8年 自然とオオムラサキに親しむ会の会長となり現在に至る。 平成12年 長坂町植物同好会の会長となり現在に至る。 平成12年 6月環境保全活動に対し、山梨県知事表彰を受賞。 平成16年 やまなし農村休暇協会ゆうゆう案内人に認定。 また、オオムラサキセンター開設以来、各種自然観察会の講師として、オオムラサキや里山保護の啓発活動を続けるとともに、エノキの植樹、幼虫の調査など、オオムラサキの保護に尽力を注いでいる。 会長を務める自然とオオムラサキに親しむ会に対しても、長年にわたる環境保護活動が評価された。
山梨県	米笠ホタル愛育会 (よねかさほたるあいいくかい) 会長 山田 健一郎	1991年の発足以来、六反川流域においてホタルの保護・繁殖活動を行っており、河川清掃等ホタルの生息環境を守る努力も続けている。また、一般の方を対象に自然保護の啓発の場として「ホタルまつり」を実施するなど、普及啓発についても積極的に取り組んでいる。その功績が認められ、2000年6月に山梨県環境保全功績者表彰(団体)(知事表彰)を受賞する。同賞受賞後も、継続して「ホタルまつり」等の活動を実施しており、2005年には双葉水辺公園において、ホタル幼虫の放流を行っている。
長野県	片桐 勝彦 (かたぎり かつひこ)	中央アルプス県立自然公園の定期的なパトロール及び高山植物の保護活動を実施。 登山者へのゴミの持ち帰りの呼びかけ及び中央アルプス千畳敷来訪者に対する高山植物の解説及び当該解説用リーフレット作成による普及啓発活動の実施。 長野県自然保護レンジャーのための研修会講師を担当。 長野県希少野生動植物保護対策委員会委員として長野県希少野生動植物保護条例の制定に貢献。

県別	氏名	功績
愛知県	佐藤 正孝 (さとつまさたか) 名古屋女子大学名誉教授	昭和61年1月から平成13年3月まで愛知県自然環境保全審議会委員として、また昭和61年12月からは愛知県公害対策審議会委員として、平成6年8月から平成16年7月までは愛知県環境審議会委員として、自然環境の保全という観点からの審議を通じて、環境保全行政の推進に尽力された。 さらに平成8年4月から平成11年6月までは愛知県環境影響評価審査会構成員として、また、平成11年4月から現在まで愛知県環境影響評価審査会委員として、希少動植物の保護や生態系の保全の観点から、専門的知見に基づく貴重な御意見をいただくなど、本県の環境行政に多大の貢献をしている。
京都府	居母山クラブ (いもやまくらぶ) 会長 飯尾 恒洋	同クラブは、「居母山」の麓に生活し自然や山を愛する9名が集い昭和62年に発足されて以来、居母山登山や居母山登山道の整備を通じて、自然環境の保護・保全に努められている。 現在の会員は40人に増加。日本自然保護協会の自然観察指導員資格を取得して、教育委員会や学校からの要請に基づいて居母山登山の案内やフィールド体験の指導を行い、地域の子どもたちに自然の豊かさ・楽しさ・厳しさを教えるなど、地域社会との関わりの中で活動の範囲が広がっている。 また、地域住民と一緒に都市部の住民を対象とした田植え体験や収穫祭を開催し、世代間交流・地域間交流も進められている。 平成16年 6月 京都府環境保全功労者表彰受賞
大阪府	とよなか消費者協会 (とよなかしょうひしゃきょうかい) 会長 谷口 佳以子	森づくりや清掃活動等の環境保全の実践活動、とよなか市民環境会議や豊中市マイバック推進協議会活動等の啓発活動を通じた市民行動計画「豊中アジェンダ21」の普及・促進活動による環境教育啓発活動、環境配慮促進のための調査・研究活動等の、長期にわたる地域に根ざした、継続的・積極的活動。 特に、牛乳パック・トイレ・ペットボトル回収運動を先進的に取り組み、現在、市内で実践されている量販店による拠点回収の仕組みづくりとその実践による、市の廃棄物施策への貢献。 長年にわたる市事業(廃棄物減量等推進審議会、省エネルギービジョン策定委員会等の各種審議会委員、市イベント)への協力 回収事業益により車椅子等の市への寄贈 平成5年10月 リサイクル推進協議会会長賞受賞(厚生労働省関係) 平成17年6月 おおさか環境賞特別奨励賞受賞(知事表彰)
大阪府	岸和田市消費生活研究会 (きしわだししょうひせいかつけんきゅうかい) 会長 石川 万紀子 (H18.4.19~次会長:西村 静代)	1,平成6年8月 EMボカシによる生ごみ処理開始 2,平成11年 買い物袋持参運動開始(マイバック啓発)を開始 3,平成14年 廃食用油と牛乳パックでの石鹸づくりの取組みなど開始 4,平成15年 リフォームくらぶ開催 省エネライフ促進事業(おおさかエコアクション)に積極的に参画し環境家計簿の普及啓発 5,平成16年8月 学習会「地域に広めよう環境家計簿」を開催 6,平成16年10月 エコバックの活用方法、ふるしきを使ったエコラッピングなどの活用実演セミナーを開催 7,平成17年2月 きしわだ環境市民会議において温暖化部会に参加し、温暖化対策に積極的に参画 8,平成17年9月 岸和田市民を対象に「地球温暖化・省エネ行動」に対する意識アンケート調査を実施し、結果について消費者研究発表大会において発表 以上のように、市民の誰もが環境問題に取り組めるよう工夫し、普及啓発運動を永く継続的に実施し、また市地球温暖化対策施策事業や環境保全推進事業の推進に大きな原動力となっている。 平成16年6月 おおさか環境賞奨励賞受賞(知事表彰)

県別	氏名	功績
兵庫県	<p>西宮市立山口中学校理科部 (にしのみやしりつやまくちゅうがっこうりかぶ)</p> <p>理科部長 小田切 弘樹 理科部顧問 寺田 清彦</p>	<p>モリアオガエル(兵庫県版レッドデータブックにおいてBランクに指定)は、夜行性で、産卵場所が目立つ樹上で生活するなど特異な生活様式のため、環境に対する適応力が弱く、最近の都市化の進展等に伴い衰退傾向にあり、東北地方では国の天然記念物に指定されている貴重種である。</p> <p>昭和43年、部員が西宮市内の道端で見慣れないカエル(モリアオガエル)の死骸を見つけ、翌年には同市内の池で卵塊を発見した。このモリアオガエルの生息が確認されたことをきっかけに、部活動(この活動がメイン)として保全活動が開始されるようになった。昭和49年には飼育池(モリアオガエル飼育室)をつくり、飼育数を拡大させた。その後、地付近の宅地造成によって、池は消滅するが、別の場所に平成3年には飼育小屋をつくり、その中に水槽を設け、そこで活動をしている。</p> <p>主な活動として、宅地造成の進む生息地の実態調査、採卵、人工孵化、放池、樹木の植栽や池づくりなど生息地の整備などを30年以上続けている。</p> <p>また、保全・飼育活動とともに生息地の個体数調査を定期的に行い、学術的に注目されるきっかけをつかった。また、このことが生徒たちの自然保護への関心を高めることにとどまらず、地元の保全活動の原動力ともなっている。</p> <p>平成3年 環境保全功労者知事表彰(兵庫県知事)受賞</p>
奈良県	<p>松村 佳子 (まつむら けいこ)</p>	<p>1995年に奈良県環境審議会委員に就任。</p> <p>以来、2002年から同審議会の副会長として尽力するとともに、水質部会委員にも就任し、長年の経験をもとに、環境教育の見地から指導・助言を行い、環境行政の推進に多大な貢献をしている。</p> <p>また、県内で環境保全活動を積極的に行っているNPOや事業者等で構成される「奈良県環境県民フォーラム」の設立に携わり、1997年よりフォーラム代表委員として県内の県民・事業者等による環境保全活動の促進に多大な貢献をされている。</p> <p>さらに、2002年からは奈良県がめざすべき循環型社会の姿を示した「奈良県循環型社会構築構想」の策定に携わり、策定委員会委員長として、委員会の意見をまとめたほか、2003年度からは奈良県循環型社会推進協議会委員長として、環境行政の推進に多大な貢献をしている。</p> <p>このように、本県の環境に熟知し、長年にわたり本県の環境の行政の推進に貢献した多大なる業績は、表彰に値するものである。</p>
島根県	<p>特定非営利活動法人 斐伊川流域環境ネットワーク (ひいかわりゅういきかんきょうねつとわーく)</p> <p>理事長 小谷 武</p>	<p>斐伊川流域を対象に、上下流交流によるどんぐりの森づくりや菜の花を活用した循環型地域づくり、湖へのヨシ植栽による水環境復元など、水環境を軸とし、湖と流域全体を対象とした活動を、上下流連携のもと、将来を担う子供達や市民団体、農林水産業、行政などの多様な主体の協働により進めている。</p> <p>【主な事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花プロジェクト <p>上下流の住民による菜の花づくり、廃食用油の回収と再利用による循環型地域づくり、環境学習等の場づくりなど、流域住民等による斐伊川流域全体を通じた環境保全活動を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宍道湖ヨシ再生プロジェクト <p>ヨシが持つ水質浄化機能と水生動植物の保全機能による宍道湖の水環境の復元を目指し、地元の子供達や行政等との協働による竹ポットを利用したヨシの植栽活動を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの森づくり <p>緑の復元のため、上下流域の小学生がどんぐりを集め、竹ポットに種まきし、流域の山々に植林を行うなど、緑の大切さを実感出来る環境教育の場として森づくり活動を進めている。</p> <p>平成15年 島根県環境保全功労者知事感謝状授与</p>

県別	氏名	功績
岡山県	赤木 靖春 <small>(あかぎ やすはる)</small> 学校法人加計学園専務理事	岡山県環境影響評価技術審査委員会(以下「委員会」という。)の委員として、環境影響評価における環境保全措置のあり方等を中心とした技術的事項について、環境化学の専門的立場から審査・助言を行うとともに、委員会の会長として、住民意見や各分野の専門家からの多岐にわたる意見を行政的な見地から集約することに尽力している。 特に、本県の環境影響評価に係る指導の根幹となる技術指針の策定(平成11年)にあたっては、技術的助言を行う中心的役割を担い、また、委員会の前身である岡山県環境アセスメント技術検討懇談会(昭和54年設置)でも設置当初から委員を務め、本県のほとんどの審査案件に携わるなど、本県の環境影響評価の審査に必要な不可欠な人材である。 また、平成6年8月から平成16年9月まで岡山県環境審議会委員として、本県の廃棄物処理計画の策定に携わるなど、本県の循環型社会の形成にも尽力している。 さらに、平成15年4月からは岡山県環境保全委員会会長として、県民からなされた環境の保全に関する提言についての調査審議に大きな役割を果たしている。 以上のように、専門的分野からの意見にとまらず、常に行政的な観点も考慮した大局的見地からの助言・平成16年 岡山県知事表彰「環境おかやま大賞(環境保全推進)」
広島県	湯川 和子 <small>(ゆかわ かずこ)</small> 広島女学院大学助教授	エコクッキングの指導、ごみ減量化の指導、ごみの調査活動、雑誌・テレビ番組による啓発活動など、多年にわたり幅広い世代を対象に環境教育・環境学習の指導に取り組み、地域に根ざした環境保全活動を実施している。特に、月間「環境ジャーナル」及びテレビ番組「なんでも110番」による啓発活動は、市民のみならず、市外、県外の住民も視野に入れた広域的な活動として評価できる。また、環境パートナーシップ組織である「くれ環境市民の会」の運営委員として活動の中心を担っている。 1. エコクッキングの指導 平成元年4月から管理栄養士として栄養指導に環境保全を加味した指導をはじめ。現在、広島女学院大学の助教授として臨床栄養学実習で学生へエコクッキングを指導。また、呉市内小中学校で行政を協働でエコクッキング出前講座を実施したり、保育所、幼稚園でも食育としてエコクッキングを実施するなど、将来を担う子供や若年層への啓発に特に力を注いでいる。 2. ごみ減量化の指導 こどもエコクラブで「みんなでやるごみ減量」の指導。広島女性大学、呉女性セミナーでごみに関するアンケートをもとに講演した。 3. ごみに関する調査活動 共済医報(平成9年2月発刊)に「生糧食品の販売を検討して」小論文を掲載した。また、平成9年3月、ごみに関するアンケート調査を実施し、結果を小論文にまとめて中国新聞で報告した。 4. 月間「環境ジャーナル」による啓発活動 「食生活なんでも110番」というシリーズを連載し、日常生活において自然とエコライフが実践できるよう具体的に提案している。 5. テレビ番組「食生活なんでも110番」による啓発活動 広島県ホームテレビの番組「食生活なんでも110番」の講師としてエコクッキングの指導を実施した。 6. 環境パートナーシップ活動 くれ環境市民の会運営委員及び広島県地球温暖化防止活動推進委員として地球温暖化を考える様々な啓発イベントや環境啓発講座等の事業企画に多数参画し、中心となって活動した。また、NPO日本環境ネットワークに所属し、環境保全活動として黒瀬川流域づくり事業にも関わっている。

県別	氏名	功績
広島県	大前 昭義 (おおまえ あきよし)	1. 昭和59年、産業廃棄物協会に参画し、役員に就任、63年副会長に就任し、業界の同業者への協会加入の働きかけを通じて結束を固め、初期の産廃業界の秩序作りに大きく寄与した。また平成3年の法人化にも中心となって尽力し、協会の発展・近代化に貢献し、平成7年会長に就任以来、業界のリーダーとして、業界の発展に寄与している。 2. 協会会長として、協会内に課題や問題点を検討・協議する体制を整え、活性化を図るとともに、協会のホームページを開設して、県内廃棄物処理業者の情報公開を全国に先駆けて推進するなど、また、講習会等を積極的に開催するなど、会員の意識変革等を推進している。 3. また業界の社会的貢献活動の必要性を認識し、県民に不法投棄防止を広報するなどの取組みを行っている。 4. 県や市の廃棄物関係委員会の委員として、廃棄物排出抑制のための廃棄物行政の施策の立案に貢献した。 5. 特に平成15年度からの産業廃棄物埋立税の施行に際しては、協会会長として業界の取りまとめを行い、円滑な導入に向けてのコンセンサスづくりに尽力した。 6. 平成17年度に「ひろしま環境賞(県知事表彰)」を受賞している。 ・社団法人全国産業廃棄物連合会顧問、 ・社団法人全国解体連合会参与、 ・社団法人広島県産業廃棄物協会顧問
香川県	観音寺市立観音寺東小学校 (かんおんじしりつかんおんじひがししょうがっこう) 校長 植田 良三	本校は平成11年度より同校区内の観音寺市有明浜における海浜植物の観察・保護に継続的に取り組んでいる。特にハマナデシコの採種、栽培、移植活動については平成11年度から毎年行っており、同種の保護活動における功績は大きい。また、平成12年度からは新たにハマボウフウの採種、栽培、移植活動を、平成14年度からはウンランの保護活動にも取り組んでおり、県立笠田高等学校と連携し、バイオテクノロジーを駆使しての育苗、増殖に取り組み、成果を上げている。これらの保護活動と合わせて環境保全ポスターを作成し、公民館に配布したり、地域住民を招いた学習発表会において環境保護活動の報告を行うなど、地域への発信にも力を注いでおり、近年特に海浜植物の保護意識が高まったのは同校の取り組みによるところが大きい。現在は「総合的な学習の時間」に同活動が明確に位置付けられ、4年生を中心に海浜植物の観察・保護活動を、5年生では海の環境を守るための川の環境、水源の森の働き等について学習を進展させるなど、児童の環境に対する保護意識や生命尊重の意識の向上にも大きな成果を上げている。
福岡県	梅田 佳暉 (うめだ よしあき)	平成4年に社団法人福岡県産業廃棄物協会理事に就任して協会事業活動に参画した。その後、同協会医療部会部会長等を歴任して、平成6年から副会長として協会運営の重責を果たし、協会の発展に尽力してきた。平成14年からは同協会の会長として産業廃棄物処理業界においてリーダーシップを発揮し、福岡県の外部委員会・協議会の委員をはじめ廃棄物学会九州支部評議員を務めるなど、業界の発展と近代化に多大な貢献を行って現在に至っている。 さらに、福岡県のみならず社団法人全国産業廃棄物連合会理事並びに同連合会九州地域協議会会長として、時代の求めている循環型社会の形成と適正処理の推進に大きく寄与した。 また、昨年から社団法人全国産業廃棄物連合会副会長に就任し、環境省や福岡県等の環境行政機関と連携を取りながら、環境の世紀にふさわしい新しい時代の環境保全の創造に向けて尽力を行っている功績は大い 平成12年9月 福岡県環境改善事業功労者知事表彰

県別	氏名	功績
熊本県	<p>財団法人 肥後の水資源愛護基金 (さいだんほうじん ひごのみずしげんあいごききん)</p> <p>理事長 長野 吉彰</p>	<p>昭和62年にふるさとのかけがえのない地下水を枯渇と汚染から守ろうという提唱から、肥後銀行と熊本日日新聞社の共催により、肥後の水資源愛護賞を創設し、県内各地で水資源のかん養、保全、水質汚染防止、節水などにつながる実践努力を続けている団体、個人について選考を行い、審査委員会でその活動を評価、審査し顕彰する事業をスタートさせた。</p> <p>その後、平成4年に事業のさらなる発展を目指して同基金を設立し、これまで、県内の222団体と11個人についてその活動を顕彰している。</p> <p>平成8年には、同基金の水資源の保全に係る普及啓発が評価され、国土庁(当時)長官から水資源功績者の表彰を受けている。</p> <p>その後、現在にいたるまで、毎年顕彰事業はもとより、シンポジウム、新聞、テレビ等による啓発活動、ボランティア団体への助成活動など様々な事業を行っている。</p> <p>平成13年から南阿蘇村の国有林などにクヌギやケヤキなどの苗木の植樹事業をはじめ、これまでに約6000本の植樹を行っている。また、本年度(平成17年)から、苗木の成長を助けるための下草刈りもはじめている。</p> <p>【植樹ボランティア等】</p> <p>平成13年3月 南阿蘇村国有林0.34haに1,000本 平成14年3月 南阿蘇村国有林0.2haに500本 平成15年3月 大津町有原野0.25haに1,000本 平成16年3月 大津町有原野0.25haに1,500本 平成17年4月 大津町有原野0.3haに2,000本 " 8月 " 1.0haの下草刈り</p>
大分県	<p>特定非営利活動法人 ひた水環境ネットワークセンター (ひたみずかんきょう ネットわーくせんたー)</p> <p>理事長 諫本 憲司</p>	<p>「この水を守りたい！」から始まった活動は、平成8年に「子どもたちに泳げる川を！」をスローガンに、河川清掃や自然体験を行う「リバーフェスタ in みくま川」を開催。現在では「川がゆうえんちになる日」として2,000人以上が川に集う夏のイベントとして定着している。</p> <p>また、平成6年から水環境保全活動の一環として実施している「洗濯キャラバン」では、昨年は県内外10箇所をまわり自然と体にやさしい石鹸利用を推進している。</p> <p>さらには、平成16年にひたの川を考える会と共同でプロジェクトを立ち上げ、三隈川河川敷に子どもたちが安心して遊べる親水空間「台霧の瀬」を創りあげるなど、きれいな川を守る活動とともに自然の中で自然にやさしい子どもたちを育成する、「今」と「未来」を考えた取り組みを行っている。</p> <p>そのほか、平成12年にダムの放水量増加による河川環境の改善を求めた水量増加運動が展開された際には、運動の中心となって署名活動や市民総決起集会の開催に尽力し、「三隈川・大山川河川環境協議会」を設立、鮎の成育時期に合わせたダム放流量の増加を実現させている。</p> <p>新たな取り組みとしては、里山保全とまちづくりを目的とした「千年あかり実行委員会」への参加や「小水力利用シンボ」の共催、日田の昔の川写真集「水郷日田 川の記憶」の編集に協力するなど多岐にわたっている。</p> <p>以上のとおり、その活動は日田市の環境保全やまちづくり・川づくりにおいて広範囲にわたり、功績は顕著である。</p> <p>平成16年 環境省水環境部長表彰(水環境保全功労者)</p>

県別	氏名	功績
鹿児島県	鎌田 薩男 (かまた さつお)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年から長年にわたり鹿児島県環境審議会委員として、本県において特に問題となっていた畜産に起因する悪臭などに対する臭気規制や大気保全・騒音規制行政など専門的な立場から適切な指導・助言を行っている。 ・平成10年からは同審議会総合部会（現大気環境部会）の部会長に就任し、騒音規制法、振動規制法及び悪臭防止法に基づく規制地域の指定や規制基準の設定について会の運営に尽力されており、特に、平成12年の新幹線鉄道騒音に係る環境基準の類型指定の際には、既存新幹線鉄道沿線地域や、本県の沿線予定地での環境騒音測定の結果を踏まえた基準値の検討にあたっては、同氏の貴重な提言・助言に寄与するところが大きくあり、本県の鉄道騒音対策の推進に大きく貢献した。 ・平成3年からは、公害紛争に関する調停等を行う県公害審査会委員、平成12年からは会長代理として公害調停の解決にあたられ、特に平成16年に申請された騒音・振動公害事件においては、調停委員として御尽力いただいた。 ・平成3年からは、県環境影響評価専門委員として環境アセスメントに専門的な立場から提言・助言いただくなど、本県の環境保全の推進にあたり多大な貢献をされている。
沖縄県	沖縄リサイクル運動市民の会 (おきなわりさいくろんどうしみんのかい) 代表 古我知 浩	<p>沖縄リサイクル運動市民の会（以下「市民の会」という。）は、昭和58年に「物を大切にるところから心の豊かさを取り戻そう！」という呼びかけの下、市民団体として設立され、廃棄物・リサイクルに関する分野で様々な活動を展開してきている。</p> <p>市民の会では、新たな試みを繰り返しながら「エコロジカルな産業活動の支援」、「循環システムの構築」、「環境教育」、「NPOなど市民セクター形成」の4つを柱に活動を展開し、誰もが、気軽に参加できる「場」と「システム」を提案しており、平成12年には、NPO法の施行を受け、廃棄物・リサイクルに止まらず広く環境分野での新たな活動に資するため、市民の会を母体とする「NPO法人エコ・ビジョン沖縄」を設立している。</p> <p>市民の会の活動内容としては、平成2年から県内の百貨店において「コミュニケーションボード」を設置し、気軽に利用できる不用品交換場を提供し、リユース活動を促進している。</p> <p>また、行政と連携し、啓発事業や計画策定事業、環境教育プログラムの開発を行ってきており、平成12年からは県や那覇市等の委託事業として、小学校4年生から6年生を対象とした出前講座「ごみ減量・リサイクル講座（通称「買い物ゲーム」）」を開始している。同講座については、教本として全国出版されており、実際に県外へも講座に出向くなど、その活動は県内のみならず県外にも及んでいる。</p> <p>さらに、事業系古紙や生ごみを対象としたリサイクルネットワークの構築にも取り組んでおり、特に生ごみの減量化を目的に、スーパーや食品工場から排出される生ごみを回収、飼料化して、畜産農家で利用していく生ごみ循環システム「くいまるプロジェクト」については、平成13年度に県の産学官共同研究推進事業等で実証事業を行うなど実証事業を行った後、平成17年度から事業化に至っている。</p> <p>このように市民の会の活動は、特に県民のごみ減量化・リサイクルの意識向上に多大に貢献しており、本県の廃棄物・リサイクル行政への功績が顕著である</p> <p>平成17年 沖縄県環境保全功労者表彰受賞（県知事表彰）</p>
沖縄県	古見こどもエコクラブ「キバリヨー・ファーマー」 (こみこどもえこくらぶ きばりよーふぁーまー) 代表サポーター 松本 千枝子	<p>(表彰)平成17年度 沖縄県環境保全功労者表彰受賞（県知事表彰）</p> <p>古見こどもエコクラブ「キバリヨー・ファーマー」は、沖縄県八重山郡竹富町の西表島で活動する日本最南端のこどもエコクラブです。「西表島の自然を知ろう！遊ぼう！守ろう！」をテーマに平成8年の結成から今年で11年目を迎えます。沖縄県内のこどもエコクラブの中でも活動年数が長く、地域の環境保全に対する意識啓発や環境美化活動に積極的に取り組んでいます。</p> <p>クラブの活動拠点は西表島東部地区（古見集落）に位置し、人口は76名（平成18年3月末現在）、活動メンバーは全員、地域唯一の小学校・古見小学校に通う全児童生徒で構成されています。</p> <p>クラブの活動は、子供達のアイデアと自発的な行動を大切に、主な活動内容は、年間を通して集落内の美化清掃や海浜清掃などのボランティア活動と、西表島に生息するイリオモテボタル、イリオモテヤマネコ、マングローブなどの貴重な生物の生態調査を展開しています。そして、その成果は壁新聞にまとめ、学校や地域住民に紹介するなど子供の視点に立った自然保全活動をおこなっています。</p> <p>また、地域に古くから伝わる数々の伝統芸能・祭事などに参加し、地域のお年寄りや先輩達とふれあひながら伝統継承していくことにより、自分達の暮らす地域に誇りが持てるようなクラブ活動を展開していま</p>

県別	氏名	功績
さいたま市	さいたま市リサイクル女性会議 (さいたましりさいくるじょせいかいぎ) 会長 丸山 繁子	1,平成7年 透明・半透明ごみ袋導入に伴い、街頭キャンペーン実施(市内駅前) 2,平成9年 レジ袋透明化事業 手作り作品講師派遣事業開始 3,平成10年 イトーヨーカ堂との意見交換会(レジ袋の透明化) 4,平成11年 リサイクル公開教室開催(以後継続) 第8回ごみ減量化推進全国大会に協力参加 埼玉県知事よりごみ減量化推進全国大会協力感謝状受賞 5,平成12年 10周年記念誌「リサイクル活動・楽しい作品集」発行 6,平成14年 大宮・与野地域からの協力員も加わり、全市的な活動となる 7,平成15年 政令指定都市移行に伴い、各区ごとに活動開始 市の分別方法・収集方法変更に伴う市民への啓発活動 8,平成16年 収集作業実体験
横浜市	瀬谷市民の森愛護会 (せやしみのもりあいごかい) 代表 山口 貢	身近な緑地環境保全のために、瀬谷市民の森の維持管理を行っています。 主な活動 定例的な活動として草刈り、清掃、植林、花木の手入れ、散策路の整備、ごみの不法投棄監視、トイレ管理、監視パトロールなど (自然観察会、ワークショップの開催) 東野中学校コミュニティスクール事業への協力 (自然観察会) 平成17年 横浜市環境保全活動賞受賞
横浜市	横浜メダカの会 (よこはまめだかのかい) 代表 植松 均	横浜メダカ(土着のメダカ)の保護・育成に関する活動及び調査研究、情報交換、啓発活動等を通して、豊かな水辺のある都市環境を目指す活動を行っています。 主な活動 会報や7周年記念誌の発行 全国めだかシンポジウムへの参加 土曜塾「メダカの学校」開講 柏尾川水系メダカの採卵・研修
横浜市	和泉川東山の水辺愛護会 (いずみがわびがしやまのみずべあいごかい) 代表 沼倉 文志	和泉川東山の水辺を良好な環境を保ち、快適な水辺とふれあい親しむことができるように、環境美化活動を実施し、水辺愛護精神の高揚を図る活動を行っています。 主な活動 川辺の除草作業8回/年 清掃パトロール6回/年 紫陽花の剪定作業 いきいき瀬谷っ子育成事業(水生生物調査、ごみの収集と分別、水辺の苗木の植栽など) 平成17年 横浜市環境保全活動賞受賞

県別	氏名	功績
名古屋市	上平 知子 (かみだいら ともこ)	昭和59年11月より名古屋市公害健康被害認定審査委員として、公害健康被害の補償等に関する法律に基づく被認定者に対する認定の更新等に係る医学的審査業務に従事し、公正かつ円滑な補償救済事務の推進に尽力している。 平成4年11月より日本呼吸学会東海地方学会評議員として、また平成12年4月からは碧南市医師会理事としても広く地域医療に携わり活躍している。
京都市	上京保健協議会連合会 (かみぎょうほけんきょうぎかいれんごうかい) 連合会長 城戸 信一	上京保健協議会連合会は昭和28年9月に設立され、当初は生活環境の改善を中心に取組んでいた。しかし、公害問題がクローズアップされるようになった昭和40年代後半からは、環境週間記念講演会や様々な街頭活動に参加するなど、環境保全にも関心を持ち積極的な活動を行ってきた。 平成9年8月からは環境にやさしいバイオディーゼル燃料の普及のため、廃食用油の回収の取り組みを開始し、現在では上京区内17の全学区で実施し、区民の環境保全に対する意識の向上に多大な貢献を行っている。今後も廃食用油の回収だけでなく、広く環境問題に積極的に取組み、区民の環境保全に対する意識に寄 昭和63年度京都府知事表彰
神戸市	岩壺卓三 (いわつばたくぞう) 関西大学工学部教授	多年にわたり、神戸市の環境影響評価制度における第三者機関である、神戸市環境影響評価専門委員会及び神戸市環境影響評価審査会の委員として主として振動の分野を中心として、厳正な調査審議に尽力をされている。また、環境問題に関する深い理解と幅広い学識をもとに、本市の環境行政に対して有益かつ、先見的な助言をいただいている。 平成17年12月 大気環境保全活動功労者表彰
北九州市	若松秋桜会 (わかまつこすもすかい) 代表 久永 恵美子	1,平成7年11月 グリーンパークでフリーマーケットを開催、収益を全額(財)国際交流協会を通じて留学生の生活支援に又地域施設に贈呈 2,平成9年 環境家計簿推進運動 3,平成10年 使用済み切手、テレフォンカード、書き損じハガキを回収し、(財)北九州ユニセフへ贈呈 4,平成11年 トレー、紙パックの分別回収箱設置運動の推進 5,平成12年 マイバック運動をアピール、ペットボトル工作 6,平成14年 マイバックキャンペーン1000人のアンケート調査 7,平成14年4月 環境ミュージアムにて学習サポーター 8,平成15年 北九州市の環境月間、エコステージ、消費者フェスティバルで展示ワークショップの開催 福岡県環境保全功労者知事表彰

県別	氏名	功績
地方事務所	氏名	功績
関東事務所	上領 園子 (かみりょう そのこ) NPO法人埼玉環境カウンセラー協会 副会長	平成9年に、毛呂山町で「ごみを考える会」を設立。 以来ごみの減量化、リサイクル促進のための普及啓発に積極的に取り組んだ。 地元の中学校では、「身近な環境問題」というテーマで長年講師を務めたほかに、県の『環境教育アシスタント』や財団法人日本環境協会の『こども環境相談員』として、県や国の環境学習の推進にも多大な協力をした。 また、家庭では一般的には一人一日1Kg出すと言われているごみを一人一日当り40gしか出さないなどのエコ生活を実践し、この経験を交えた講演は、参加者にとっても好評である。 以上の総合的な観点により受賞 平成17年 第6回さいたま環境賞県民大賞を受賞し、知事表彰を受ける。
関東事務所	鈴木 富雄 (すずき とみお)	永年にわたり水処理プロセスの開発設計に取り組み、多数の特許を取得するなど、河川海域の水質浄化に多大な技術的貢献を行ってきた。また、NPO法人杉並環境カウンセラー協議会理事長、東京環境カウンセラー団体連合会会長として、環境カウンセラー活動の発展に尽くし、地方自治体の各種審議会委員として、環境行政への助言・提言、環境行事の企画・運営、講演会・講習会・シンポジウムの開催など、地域密着型の環境保全活動を積極的に推進している。特に、善福寺川再生をめざして行なっている連続講座やシンポジウムの開催などの水環境創造の活動は、杉並区などの地方自治体からも高く評価されているところである。また、エコアクション21地域事務局東京中央を設立し、事業者の環境に配慮した取組に対する指導・審査事業を展開しているところである。 【資格】 技術士（衛生工学部門）
関東事務所	鹿島 實 (かしまみのる)	永年にわたり、日本石油㈱において石油エネルギー開発に従事する傍ら、エネルギー供給者からみた地球環境問題への取組を提言し、また、資源エネルギー庁の21世紀エネルギー検討委員会・企画小委員会委員、工業技術院の技術審議会・省エネルギー部会専門委員、エネルギー総合推進委員会・専門委員などを歴任して、わが国の省エネルギー対策推進に多大の貢献を行ってきた。また、NPO法人東京城南環境カウンセラー協議会理事長、東京環境カウンセラー団体連合会副会長として、東京における環境カウンセラー活動の発展に尽くし、地域環境の保全に大きな貢献をしている。近年は、エコアクション21地域事務局東京を設立し、事業者の環境に配慮した取組に対する指導・審査事業を推進し、大田区などの地方自治体からも高い評価を得ているところである。

県別	氏名	功績
近畿事務所	<p>特定非営利活動法人 野生生物を調査研究する会 <small>(とくていひえいりかつどうほうじんやせいせいぶつをちょうさけんきゅうするかい)</small></p> <p>理事長 今西 将行</p>	<p>"1993年度"兵庫県武庫川流域調査結果をもとに副読本「生きている武庫川」魚類編を作成し、流域の小中学校に野外活動読本として3000冊寄贈する。</p> <p>1994年度 "武庫川の異常湧水時に魚の救出作戦を実施し、多数の魚を救出。この作戦に地域の住民や青年会議所も参加して実施する。</p> <p>1995年度 "阪神淡路大震災の直後に武庫川流域の野生生物の実態調査をし、流域の市町に結果を報告書にまとめる。</p> <p>1997年度 "武庫川流域の小中学校要望を受け、「生きている武庫川」総集編を作成し、再度、3000冊を寄贈する。</p> <p>1998年度 "大阪府と兵庫県境を流れる猪名川流域を調査し、その結果を「生きている猪名川」に編集し、流域の小中学校に3000冊寄贈し、野外学習に活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境保全の創造活動「裸足では入れる水辺環境づくり」を目標に、他の団体と「メダカのある里づくり実行委員会」を結成し活動を開始する。 <p>2001年5月3日には全国メダカフェスティバルを開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中幼の教員を対象にした環境教育セミナーを開催する。2005年度で9回の開催となり、155名が受講し、各学校で活躍している。 <p>1999年度 兵庫県揖保川流域を調査し、「生きている揖保川」に編集して流域の小中学校に5000冊寄贈し、活用していただいている。</p> <p>2000年度 "一般市民対象の環境保全実践啓発活動グループ「ナチュラリストクラブ」を結成する。会から講師を派遣し、環境教育を実施している。</p> <p>2001年度 "川西市等の公民館の環境保全講座に環境カウンセラーを中心に会員を派遣している。</p> <p>2002年度 "武庫川流域を再調査し、その結果を改訂版「生きている武庫川」に編集し、再度、流域の小中学校に寄贈する。</p> <p>"2004年度"JICAの草の根技術支援事業の委託をうけ、ブラジル国パラ州トメアス郡において地球温暖化防止対策として子どもを対象とした環境教育指導者養成講座「アマゾン自然学校プロジェクト」を三年事業として実施している。2006年度で18名のインストラクターを養成する。</p> <p>2005年度 "全国ワースト3にいつも名が出る大和川流域の調査を実施し、「生きている大和川」に編集し、奈良県と大阪府の大和川流域の小中学校に3000冊寄贈。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山環境保全活動が認められ、環境省の「里地里山再生モデル地域」に選定される。 <p>"</p> <p>会員33名の内、13名が環境カウンセラーを取得し、積極的に環境保全活動を実施し、さらに環境カウンセラー取得に向け研鑽努力している。</p> <p>団体として、1994年兵庫県知事よりくすのき賞、神戸市花時計賞、1996年全国野生生物保護実績発表大会で林野庁長官賞、2000年環境庁水質保全局長より水環境賞を受賞している。</p>